

アルミ缶 リサイクル ニュース

April
4
2016

Vol. 135



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminium Can Recycling Association

東京都中央区銀座4-2-15 塚本素山ビル6階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒104-0061

<http://www.alumi-can.or.jp>

平成27年度アルミ缶回収協力者(一般)表彰

全国各地で表彰式

当協会は、アルミ缶の回収活動を行っている団体の中から優秀な回収活動実績をあげられた方々を毎年表彰しています。本年度の表彰は全国で64団体(受賞者の詳細は、前号Vol.134に掲載)で、1月から3月にかけて表彰式が全国各地で行われました。

関東地区(静岡県の一部含む)の受賞者につきましては、合同表彰式で表彰しました。また、本年度の優秀回収拠点を2社についても、同時に表彰しました。



挨拶をされる遠藤理事長



挨拶をされる経済産業省非鉄金属課井上課長



乾杯の音頭を取られた富永副理事長

関東地区の受賞数は、28団体に上り、27団体の参加により盛大に執り行われました。表彰式に先立ち遠藤政宏理事長より「当協会は貴重な輸入資源であるアルミニウムのリサイクル、再資源化を促進するため各種の活動を行っている。1976年度から表彰制度をスタートした。回収されたアルミ缶は一部の輸出も含み、回収率は

一部は新しい地金を作る。再生可能な資源の中でも95%という数字は非常に高い。一般にアルミニウムはリサイクルの優等生と言われ、これもひとえに皆様の日頃の地道な回収活動によるものと感謝している」と挨拶されました。

次に、来賓の挨拶に立たれた井上課長は「アルミは日本にとって貴重な資源である。一方でこれほどまで回収が進んでいる金属は例がないし、学校、町会など多岐にわたる方の手を経てリサイクルされ、いろいろな形になって再度届けられている。アルミは新しい地金を作るより30分の1とかそれ以上の少ない電気ですりサイクルができる。資源の少ない日本には大変有効であるため、皆様方の取組みをさらに広げて頂きたい。」と述べられた。

乾杯には、富永泰夫副理事長が立たれ「世の中では、リサイクルが非常に大事だと言われている。アルミ缶がリサイクルの優等生の1つだと、私たちが自信を持っているのは、皆様の回収活動の賜物だ。」と話されました。

関東地区については、受賞者を一堂に介して合同表彰式を開催しており、平成28年2月16日、東京千代田区二ツ橋の如水会館にて開催されました。また、同時に優秀回収拠点の2社を表彰しました。



アルミ缶回収協力者合同表彰式〔関東地区〕
およびアルミ缶優秀回収拠点表彰式



閉会の辞 保谷敬三理事(中央)



表彰風景。左側：受賞者、右側：遠藤理事長

乾杯の後、遠藤理事長より受賞27団体に感謝状が手渡されました。



NPO法人いろえんぴつ 心理福祉コミュニティズの皆さん



野庭住宅連合自治会・木村妙子会長

受賞者を代表して次の2団体から受賞の言葉をいただきました。
 野庭住宅連合自治会(神奈川県横浜市)木村妙子会長は、「リサイクルは、アルミ缶の回収は仕事の1つになっている。今後も日々の仕事に励んでいきたい。」と述べられました。
 NPO法人いろえんぴつ心理福祉コミュニティズ(神奈川県横浜市)小泉氏は、「アルミ缶の回収は仕事の1つになっている。今後も日々の仕事に励んでいきたい。」と述べられました。



【関東地区】受賞者の声



株式会社グリーンシステム 小野寺雄哉社長

平成5年に「優秀回収拠点表彰制度」を設け、当協会認定の回収拠点の中からアルミ缶リサイクルに特にご尽力くださった拠点の方を表彰しております。
 本年度は、株式会社グリーンシステム(山形県酒田市)と有限会社クリーンセンター(愛媛県大洲市)の2社を表彰しました。
 グリーンシステム代表取締役・小野寺雄哉社長は、「今年で30周年を迎え、元来、アルミの二次精錬業をしている。回収の仕組みは、二つ目は持込み品の買取、二つ目は、スーパー・ホームセンターなどに買取機の設置、三つ目は、宅配業者を用いた回収・買取。」



有限会社クリーンセンター 福積章男会長



アルミ溶解は、3Kの最たるもので、この事業を続けて100周年を目指していくには、さらにサービスマグを掛けていきたい。」と話されました。
 クリーンセンター・福積章男会長は、「来年30周年を迎える。大洲市内を隈なく回っている。人口減少しているが、これからも一生懸命頑張っていく。アルミ缶リサイクル率が95%から向上するように努力する。」と挨拶されました。



アルミ缶優秀回収拠点表彰式



静岡県・可美校区子ども会世話人連合会



佐賀県・ふれあい作業所(左側より2、3と5人目)、社会福祉法人天童会いぶき村(右側2人)

全国各地で表彰式が行われ、表彰式の写真、報道記事、お礼の便りをいただきました。受賞式の写真をご紹介します。

全国の授賞式紹介



愛知県・めいほく共同作業所



岩手県・イーハトーブあけぼの



三重県・ながしまエコの会



山口県・平川地区子ども会育成協議会



岐阜県・ひまわりの家



青森県・下新町町会(左から2人目)、出会いの家あうん(右側5人)



愛知県・平島子供会



和歌山県・伏菟野
子どもクラブ



和歌山県・下芝老人会



佐賀県・塩田地区JA女性部



愛媛県・サンワーク松柏共同作業所



福井県・福井市明るい社会づくり推進協議会



福岡県・葦の家福祉会



愛知県・めいほく共同作業所



岩手県・イーハトーブあけぼの



三重県・ながしまエコの会



山口県・平川地区子ども会育成協議会



岐阜県・ひまわりの家



青森県・下新町町会(左から2人目)、出会いの家あうん(右側5人)



愛知県・平島子供会



和歌山県・伏菟野
子どもクラブ



和歌山県・下芝老人会



佐賀県・塩田地区JA女性部



愛媛県・サンワーク松柏共同作業所



福井県・福井市明るい社会づくり推進協議会



福岡県・葦の家福祉会



愛知県・めいほく共同作業所



岩手県・イーハトーブあけぼの



三重県・ながしまエコの会



山口県・平川地区子ども会育成協議会



岐阜県・ひまわりの家



青森県・下新町町会(左から2人目)、出会いの家あうん(右側5人)



愛知県・平島子供会



和歌山県・伏菟野
子どもクラブ



和歌山県・下芝老人会



佐賀県・塩田地区JA女性部



愛媛県・サンワーク松柏共同作業所



福井県・福井市明るい社会づくり推進協議会



福岡県・葦の家福祉会



2016年飲料用アルミ缶需要予測 225億缶(前年比3.4億缶増)、3年連続で200億缶超

当協会は、毎年2月に「日本の飲料用アルミ缶需要量」について発表していますが、本年も2月16日(火)10時30分より記者会見(写真:遠藤政宏理事長(中央)、富永泰夫副理事長(左)、保谷理事(右))を行い、2016年の飲料用アルミ缶の需要量は、前年見込みの222億缶から3億4000万缶増の225億4000万缶に増加すると発表しました。非アルコール飲料やボトル缶が増加するため、3年連続で200億缶を超える見通しです。



記者会見

● 国内需要は225.4億缶で前年比2%増。
● 一昨年からコーヒードリンクの需要が伸び、「ビール以外の飲料」では2年連続で100億缶を超える見込み。一方でビール需要は100億缶割れの予想とした。

2016年需要予測

● 「ビール以外の飲料」を合計すると同23%増の114.1億缶となる。ビール以外がビールを逆転したのは初めて。
● ビールは減少傾向にあるが、ビール以外の飲料が、大手飲料メーカーのミルク入りコーヒードリンクへのアルミ缶採用やチュウハイ・ハイボールなどRTD(レディ・トゥ・ドリンク)の進展で初めて100億缶を突破した。

● 「ビール以外の飲料」を合計すると同23%増の114.1億缶となる。ビール以外がビールを逆転したのは初めて。
● ビールは減少傾向にあるが、ビール以外の飲料が、大手飲料メーカーのミルク入りコーヒードリンクへのアルミ缶採用やチュウハイ・ハイボールなどRTD(レディ・トゥ・ドリンク)の進展で初めて100億缶を突破した。

● 輸出入を除いた国産缶出荷量で初めて200億缶を超え、214億缶で、対前年比11%増となる。
● ビール(発泡酒、新分野含む)は、対前年比1%減100億缶、その他アルコールは同16%増の28.4億缶、非アルコール(清涼飲料、コーヒードリンク等)は同25%増の85.7億缶。

2015年実績見込み

日本の飲料用アルミニウム缶需要量(1~12月)

単位:億缶

暦年	2014年実績		2015年見込み		2016年予測			
		前年比%		前年比%		前年比%		
向先別国産缶 A	ビール(発泡酒・新分野含む)	100.5	99	100	99	99.0	99	
	ビール以外の飲料	その他アルコール	24.4	109	28.4	116	30.0	105
		非アルコール	68.6	112	85.7	125	89.0	104
	計	93.0	111	114.1	123	119.0	104	
小計	193.5	104	214.1	111	218.0	102		
	(内ボトル缶数量)	(22.6)	111	(25.6)	113	(30.0)	(117)	
空缶輸入量 B		0.5	100	0.5	100	0.5	90	
実缶輸入量 C		8.0	95	8.0	100	7.5	94	
実缶輸出量 D(空缶輸出含む)		0.6	100	0.6	100	0.6	100	
国内需要量(A+B+C-D) 合計		201.4	104	222.0	110	225.4	102	

(参考) 米国の飲料用アルミニウム缶需要量

単位:億缶

暦年	2013年実績		2014年実績		2015年見込	
		前年比%		前年比%		前年比%
アルコール飲料(ビール他)	351.7	104.0	361.0	102.6	369.3	102.3
ノンアルコール飲料(清涼飲料他)	588.1	100.7	572.0	97.3	562.4	98.3
合計	939.7	101.9	933.0	99.3	931.8	99.9



(米国製缶協会調べ)

(注1) 1996年以降、飲料用金属缶に占めるアルミニウム缶の割合は、100%となっている。
(注2) 2015年見込は、速報値。

協会からのお願い

● 切り取ったタブだけの回収はおやめください

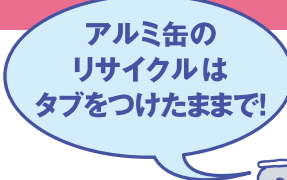
アルミ缶はアルミ缶を丸ごとリサイクルした方が安全で効率的です。タブだけを収集した場合、コンベアから、こぼれ落ちたりするのでリサイクルの工程で、特別な管理をしなければならないことも理由のひとつです。

● ボトル缶のキャップの取り扱いについて

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップを本体から外し、キャップ、本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切った上、本体と一緒に回収袋に入れてください。

● たばこの吸いがらをいれないで!

アルミ缶に、たばこをいれたままリサイクルすると火災のおそれがありとても危険です。



編集後記

桜の花も終わり、春は足早に過ぎ、初夏を思わせる気候になっています。木々は新芽が薄緑に、草花はそれぞれの個性豊かな色で咲いていきます。本号では、一般表彰についてまとめていますが、表彰式の写真が思い出され、多くを紹介することにしました。本年度も皆さんアルミ缶回収にご協力をお願いします。

アルミ缶リサイクルニュース第135号

発行日 平成28年4月28日

発行人 宇田川 寛二

編集人 大西 輝彦

発行所 アルミ缶リサイクル協会